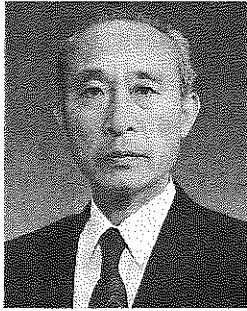


栃木県中学校長会報

[役員所感]

平成12年2月10日 発行 第92号
栃木県中学校長会広報部

古今雑感



栃木県中学校長会副会長
宇都宮市立星が丘中学校
校長 須藤 光弘

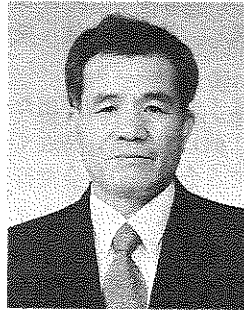
「皆さんは、職務を遂行するに当り、御神輿を担ぐスタッフとしての意識を持つか、それとも、交響楽団のシンバル担当

の意識を持つか？」栃木県子ども総合科学館に赴任した日の理事長訓示の一節である。交響楽団と聞いて、はからずも学生時代に趣味として行っていたオーケストラや合唱を思い出した。「田園」でレコードを聞きながら夜の更けるのも忘れて指揮者について論議したものである。

絶対リズム感を持ち備えたフルトベングラーのように、寸分の狂いもなく楽譜に忠実で、しかも作曲者の意図通り音を構築再現するタイプ。カラヤンのように作曲者の意図を消化した上で自分の音楽として表出するために、楽団員の選定まで手掛けるタイプ。果たしてどちらのタイプが指揮者としての在り方なのか？。当時、ご指導いただいたN響のFg奏者Y先生に伺うと、「団員の資質能力と人間性、楽団の環境によって楽団特有の色が現れる。それを見極める洞察力と、自分の意図するものを引き出すテクニックがなければ指導者とはいえない。フィアディルフィアもベルリンフィルも独特な国家風土に根差した交響楽団だ。曲の選定も含めたその持ち味を駆使してのフルベンでありカラヤンだ。どちらのタイプが性にあっていくかは君の自由だが、指揮法の基礎基本を身につけてからのことだね。」

文部省から教育改革の諸施策が提示され、移行措置や総合的な学習等の実施に向けた教育課程編成の青写真や学校評議員制導入の新聞記事を眺めながら、教職員にはシンバルを預けたい。私はどんなタイプの指揮者なのだろうか！。これからはカラヤン型になるのだろうか！と、38年前を思い出して苦笑したところである。

環境問題



栃木県中学校長会副会長
河内町立古里中学校
校長 平山 照男

21世紀も最終コーナーにさしかかり一つの時代が終わろうとしている。今世紀は、「戦争と革命の世紀」、「大衆の世紀」

など、いろいろな見方があるが、科学技術の進展と相まって、生産技術の飛躍的な発展をもたらした世紀でもある。

また、我々が便利さや豊かさを求め、大量生産、大量流通、大量消費、大量廃棄物型の現代文明と生活様式を取り入れた結果、地球環境問題を生じた世紀でもある。

我が国の環境問題は、1960年以降、高度経済成長期における産業公害問題の発生からといわれている。

その後、便利で快適な生活を求めた結果、排ガス等における大気汚染、騒音問題、生活排水による水質汚濁問題、産業排気物の処理問題など、都市生活型の環境問題が生じた。

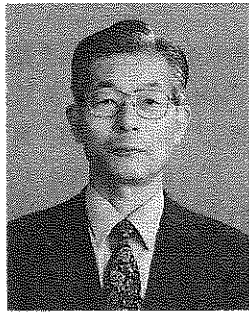
さらに、社会経済活動の拡大や人口の増加は、環境の持つ自然浄化の復元能力を超え、化石燃料の大量消費に伴う二酸化炭素による地球の温暖化現象、フロンガスによるオゾン層の破壊、ダイオキシンと環境ホルモン、酸性雨、海洋汚染など、生物の生存基盤である地球環境に取り返しのつかない影響をおよぼす恐れが生じてきた。

現在、世界人口は60億といわれているが、50年後には95億に達するといわれている。しかも人口増加の顕著な地域は開発途上国であり、都市部に集中すると予測されている。かつての我が国の高度経済成長期における産業公害問題や都市生活型の環境問題が、世界規模でますます拡大することが懸念されている。

地球環境問題は我々が便利さや豊かさを求めた消費型の生活様式がもたらしたものであり、地球資源の有限性と相まって環境問題と真剣に取り組む必要がある。

[役員所感]

13人の偉業



栃木県中学校長会副会長
小山市立第三中学校
校長 渡邊 紘 夫

え！分科会速報が出たの！前日の午後5時近くまで5会場8分科会で行われた研究協議録がA4版の17頁の美しい小冊子となって手渡された。手際よさに感心させられたが、記録者と印刷屋の明け方までの作業がなせる業であった。

全日本中学校長会研究協議会がここ釧路市で開催されることさえ不思議と言わざるを得ない。東京から1200kmの北海道、札幌から350kmの遠隔地しかも釧路市内は13中学校の非常に小さい集団である。ここに全国各地から2200余の人が集まり大会を行うのであるから、13人の労力たるや並でない。しかし、現代だから成せるのであろう。

今真に、地方の時代、地域活性化の時代、高度情報化の時代、個性化の時代であることを象徴するできごとで、これからの校長会の在り方を示したものと言える。

「人数が多くないと」、「都市部でない」となど組織編成に偏った重厚長大の思想から「人数が少なくとも」、「どこでも」など軽薄短小の機能重視の実現的な方向へと転換されている。

今大会に備えて、全日中の事務局と釧路との間に電話・FAX・インターネットなどで情報がどれくらい往復したことが想像に難しくない。だから成功したのである。

北明正紘大会委員長も「釧路で開催されたことは小さな地方都市で開催できるという実績を残したことになりました」と明言している。

これからは、地域のすばらしい人材、組織力を有効に活用することが、ややもするとマンネリ化傾向に陥り勝ちの組織を蘇生する最も重要な要素の一つであるとともに時代の要請でもあろう。

校長の意識改革をまざまざと見せつけられた立派な大会であった。

第50回全日本中学校長会 研究協議会北海道 (釧路)大会に参加して

事務局長 落合延行(宇・泉が丘中)

第50回全日中北海道大会が、10月14日・15日の2日間、湿原に鶴が舞う「まほろば」釧路で、全国から2300余名(本県35名)の中学校長が参加し開かれた。

本大会は50回目の節目の大会であるとともに平成7年度千葉大会で揚げられた大会主題「学ぶ意欲と主体的に生きる力を育てる中学校教育」の最終年次に当たる年でもあり、大会主題に迫る具体的な方途を究明すべく、全体会・分科会において活発な協議が展開された。

1日目は、観光国際交流センターで開会式並びに全体会が行われた。閉会式では安齋省一大会長が「本大会の研究協議は学校経営の視点に立ち校長がどのような教育理念の下どういった先見性を持って、どんな取り組みをし、その結果、学校・教師・生徒・地域社会がどのように変わったかを発表し論議されなければならない」とあいさつ。来賓の文部省初中局課長、釧路市長が祝辞を述べた。続く全体協議会においては全日中から「生きる力をはぐくむ中学校教育」広島県から「創意ある総合的な学習の実施に向けて」の提案があった。アトラクションとして寿子供蝦夷太鼓の勇壮な演奏が披露され大会を盛り上げた。午後は8つの分科会で提案・研究協議が行われた。

2日目は、全体会において文部省説明、全体協議に続いて「人間尊重の教育に徹し、生きる力をはぐくむ教育の推進に努める」等の大会宣言を採択した。この後、釧路市丹頂鶴自然公園名誉園長の高橋良治氏が「釧路湿原とタンチョウ」-鶴の子育てに学ぶ-と題して記念講演が行われ2日間の大会が成功裡に終了した。

研究学校の発表概要

同和教育研究学校研究内容

宇都宮市立姿川中学校
校長 真壁 敏 夫

1 研究主題

「互いの人権を認め合い、主体的に生きる生徒の育成-生徒自らが人権問題に意欲的に取り組む活動を通して-」

2 研究主題設定の理由

- (1) 今日の課題から
- (2) 「いきいき栃木っ子3あい運動」から
- (3) 学校教育目標から
- (4) 生徒の実態から

3 研究主題・副主題のとらえ方

「互いの人権を認め合い」とは、生徒一人一人が互いの個性を尊重し、生徒個々の存在を認め合うこと。「主体的に生きる」とは、正しい判断力をもって、偏見や差別を意欲的に解決しようとする。「生徒自らが人権問題に意欲的に取り組む」とは、生徒自らが学校生活において生じる様々な人権問題に気づき、その解消に向けて積極的に行動するととらえた。

4 育てたい能力・態度

- (1) 同和問題における偏見や差別の不当性や社会的差別の要因を正しく認識する能力。(知性)
- (2) 社会的差別の原因や要因を科学的・合理的に判断する能力(判断力)
- (3) 真実を見抜き、不正・虚偽・差別に対する悲しみや怒りを感じる心情(感受性)
- (4) 社会的差別について考えたり感じたりしたことを自分なりの方法を生かしながら適切に表現する能力(表現力)
- (5) 互いを信頼し、人権に関わる問題を仲間とともに意欲的に解決しようとする態度。(実践力)

5 研究の内容

- (1) 基底の指導に力を入れ、基本的生活習慣・学習習慣の確立を図るとともに、道徳教育、学級活動の充実を図り、他を認め尊重しよう

とする心情を育成する。

- (2) 教科・道徳・学級活動の年間指導計画を見直し、それらを有機的に連携させる指導の充実を図る。(連携学習プラン)
- (3) 各教科の指導において、基礎的・基本的内容の定着を図るとともに、同和教育における間接的・直接的指導を意欲的・計画的に年間指導計画に位置付けて実践する。
- (4) 教科・道徳・特別活動の場において話し合い活動や意見発表などを意図的・計画的に位置付ける。
- (5) 生徒会活動における委員会の活動を人権尊重という観点から見直すとともに、学級と生徒会との結びつきを強め、全生徒が主体的に活動できる体制をつくる。

6 各研究部の活動

【学習研究部】

- 同和教育との関連を明確にした教科指導
- 生徒が意欲的に学習に取り組む指導・評価方法の工夫
- 連携学習プランの作成

【道徳研究部】

- 連携学習プランに関わる指導内容の検討
- 共感的理解を深める指導、教師の支援の工夫
- 有効な教材・指導資料の開発

【特別活動部】

- 連携学習プランに関わる指導内容の検討
- 生徒会組織・委員会活動の見直し・改善
- 人権強化月間の活動

【調査・啓発部】

- 生徒・教師・保護者の人権意識期の明確化
- 保護者・地域への啓発活動
- 各種啓発資料の掲示

7 研究の成果と課題

研究の成果として、生徒の言語環境や生活行動の改善が見られ、基本的な学習習慣が身についてきた。また、生徒の心の中に差別や偏見を憎み、これらをなくしていこうとする意欲や人権を尊重しようとする態度が身についてきた。研究の課題としては、知識は身につけているが行動に移せない生徒がまだ多く見られ、今後も継続した指導が必要である。

研究学校の発表概要

「夢や希望をもち、たくましく
生きる生徒」が育つ進路指導
—学校・課程・地域が力を合わせ—

大平町立大平南中学校
伊原 治夫

1 はじめに

本校は平成5年の文部省事務次官通達以来、適正な進路指導の実現を目指し、様々な取り組みを進めてきた。

また、平成9・10・11年度の3年間は、中学校進路指導総合改善事業実施校の指定を受け、過去の実践を土台に、家庭・地域と連携を図りつつ、あるべき進路指導の姿を模索してきた。ここに、これまでの本校の実践の一端を紹介したい。

2 めざす生徒像及び研究の仮説

研究を進めるに際してはめざす生徒像を

◎ 自己の個性や特性を理解し、進路に関する情報の収集・活用ができる。

◎ 職業・勤労のもつ意義や役割について理解し、自分なりの職業観を持つことができる。

◎ 進路に対して具体的な計画を立て、自分にふさわしい進路を選択できる。

の3点とし、①充実した学校生活を通して育まれる肯定的な自己理解を基盤に、②家庭・地域と連携した様々な啓発的体験学習を行い、そこで得られた体験をもとに、③効果的な進路学習や、④計画的な進路相談を受けることによって、主体的に自己の進路を決定できる能力や態度を身につけることができると考えた。

3 研究の内容

「2研究の仮説」①については生徒会活動部、②については地域連携部、③については授業研究部、④については相談部がそれぞれ中心となって取り組みを進めた。ここでは紙面の関係上、地域連携部と授業研究部の実践について簡単に報告したい。

(1) 地域連携部

研究テーマ

「家庭・地域の教育力を生かす連携の工夫」

研究内容

家庭・地域と連携した体験学習の工夫
保護者とともに進める進路指導の工夫

実践内容

職場見学・職場体験・先輩を囲む会・高等学校訪問看護ステーション・人生講話・まなびへの招待・PTA進路学習委員会・PTA進路講演会

なお各行事の実施にあつては、大平町に設置された推進会議の協力を得ることができ近隣高等学校や町商工会議所、町当局の全面的な支援を得ることができた。

(2) 授業研究部

研究テーマ

「学習内容に興味や関心をもち意欲的に取り組む態度を育成する授業の工夫」

研究内容

学級活動学年別年間指導計画の作成・検討
進路指導題材系統図の作成・検討

家庭・地域の協力を得ながらの学習活動の工夫

進路学習指導案集の作成
進路指導との関連を図った道徳授業の実施
進路指導を踏まえた教科指導の工夫

特に生徒の意欲的な学習活動の展開工夫として地域在住の方を社会人先生として迎え、授業に参加して頂く実践を進めてきた。学級活動における進路学習・道徳、或いは教科等においても社会人先生を交えての授業を実施することができ、大いに成果があった。

4 おわりに

以上、本校の研究実践について、特色あると思われるもののみを簡潔に記してみた。説明の足りない点は重々承知の上でお許しを頂きたい。なお、詳細については研究紀要をご覧頂ければ幸いである。

平成11年度 各専門部活動計画

☒ 総務部

部長 須藤 光弘 (宇・星が丘中)

総務部は、各種要望書作成、事業計画・運営方針等、校長会活動の核心に触れる事業であるため常に事務局と連携を図りながら進めてきた。

以下、本年の活動内容を報告する。

- 1 第1回部会開催(4月26日)
*役員選出と事業計画等の協議
- 2 事務局と役員合同部会(6月14日)
*県教職員福利厚生事業推進協議会の校長会関係の要望書の検討
- 3 事務局と役員合同部会(6月21日)
*義務教育振興協議会の校長会関係の要望書の検討
- 4 第2回部会開催(7月2日)
*平成11年度中学校長会の要望書検討
要望書の項立てと要望内容の検討役割分担
- 5 県教職員福利厚生事業推進協議会の要望書説明(7月16日)
*口頭説明に対し、県福利厚生課対応
- 6 第3回部会開催(8月3日)
*要望書のまとめと重点項目の検討
- 7 県教育委員会との懇談会(8月26日)
*小学校長会と中学校長会合同、各理事とともに要望内容についての口頭説明に対し、義務教育課対応
- 8 義務教育振興協議会の要望書説明(9月8日)
*口頭説明に対し、県当局・県議会議長対応
- 9 各地区での要望活動(9月)
*各地区の計画に基づき関係機関及び関係者への要望活動推進
- 10 第4回部会開催(9月17日)
*平成12年度運営方針、重点目標の検討
- 11 第5回部会開催(12月14日)
*平成12年度運営方針、重点目標の案のまとめ

☒ 事業部

部長 齋藤 雄介 (河・田原中)

- 1 第1回研修会 4月26日 教育会館
(1) 平成11年度役員・組織の決定
部長 齋藤 雄介 (河・田原中)
副部長 大高 義雄 (宇・若松原中)
" 竹田 安男 (下都・壬生中)
 - (2) 事業内容の確認
ア 退職後の生活設計についての研修会
イ 道徳副読本「中学生の新しい道」の編集協力
 - 2 第2回研修会 12月16日 教育会館
(1) 退職後の生活設計についての研修会の持ち方(実施要項、分掌等の確認)
(2) その他の事業内容についての進捗状況の確認
 - 3 第3回研修会
(1) 退職後の生活設計について
ア 日時 平成11年12月16日(休)
13:00~16:00
イ 会場 栃木県教育会館 3階大会議室
ウ 内容
(ア) あいさつ
栃木県中学校長会長 高 梨 眞佐岐
栃木県教育委員会福利課長補佐 堀江 得也 様
 - (イ) 講話
(a) 退職後の医療保険について
栃木県教育委員会福利共済副主幹兼資格係長 葭田 昌 様
(b) 退職手当について
栃木県教育委員会福利課副主任兼給付係長 小野崎 一 様
(c) 年金制度について
栃木県教育委員会福利課共済事務次長兼年金貸付係長 鬼頭 行尚 様
(d) 教育福祉振興退職者部会について
栃木県教育委員会福利課退職者部会担当 振興会班長 吉田 勇 様
 - (ウ) 質疑
エ 校長会参加者 40名
- ※ 分かりにくい内容について、丁寧な説明がなされ、活発かつ率直な質疑のうちに終了できたことはたいへん有意義であった。福利課職員の皆様に感謝申し上げます。

◇ 調査部

部長 定岡明義(宇・清原中)
調査部は、前年度に引き続き全日本中学校長会教育情報部と共同し「中学校教育に関する調査」を実施し、平成11年6月18日に調査結果を全日中事務局に報告しました。調査の内容は、次のとおりです。

- (1) 公立中学校の学校数・学級数・生徒数・教員数の昨年度比との増減状況に関する調査
- (2) 平成11年度教育費(都道府県負担分)に関する調査
- (3) 平成11年度公立中学校の学級数別教員定数に関する調査
- (4) 中学校教員の需給状況に関する調査
- (5) 教員に対する都道府県教委の異動方針等に関する調査
- (6)～(8) 教員の待遇、旅費、資質向上に関する調査
- (9) 担当教科数、免許外教科担任状況(教頭を除いた数)に関する調査
- (10) 高校の入学選抜制度に関する調査
- (11) 教育課程に関する調査
- (12) 公立中学校長の退職に関する調査
- (13) 校長・教頭の選考制度等に関する調査
- (14)～(15) 校長の待遇、年齢別人数に関する調査
- (16) 中学校に設置する特殊学級(心身障害学級)に関する調査
- (17) 学校給食に関する調査
- (18)～(19) 寄宿舎、へき地の学校教育に関する調査
- (20) 生徒指導対策費に関する調査
- (21) コンピュータ利用等に関する調査

以上の調査実施に当たっては、県教委義務教育課人事係の資料提供と協力をいただきました。

上記の調査項目(9)、(11)に関する調査については各地区調査部員のご協力を得ました。なお、全日中事務局からの照会事項については、県中学校長会事務局を通して回答するなど適宜対応しました。

◇ 研修部

部長 大垣龍夫(宇・宮の原中)
1 第1回研修会(4月26日)教育会館

- (1) 平成11年度役員・組織
部長 大垣龍夫(宇・宮の原中)
副部長 上野忠之(芳・真岡東中)
副部長 深谷哲(那・佐久山中)
- (2) 研修活動計画の設定
・研究主題 「学ぶ意欲と主体的に生きる力を育てる中学校教育」
・副主題 ～生徒一人一人を生かした教育活動の推進
・重点課題と研究の視点確認

2 第2回研修会(6月17日)教育会館

- (1) 組織作り及び事業計画概要について
- (2) 研究大会運営計画について
- (3) 研究集録の執筆要項について

3 第3回研修会(8月19日)教育会館

- (1) 研究大会の運営と役割分担について

4 第21回栃木県中学校長会研究大会
(9月9日)栃木県子ども総合科学館

- (1) 開会行事
- (2) 全体会
・今年度の重点研修課題について
・3地区の研究発表(那須地区・佐野地区・芳賀地区)
- (3) 分科会
- (4) 講演 随筆家・教育新聞社客員論説委員 召田照明先生
「愛すること、愛されること、そして生きること」

5 第4回研修会(11月8日)教育会館

- (1) 研究集録の編集

6 第5回研修会(12月3日)教育会館

- (1) 研究集録の校正
- (2) 次年度活動計画の策定
- (3) 研究主題、重点課題の検討

◇ 広報部

部長 橋本忠良(河・南河内中)
平成11年度栃木県中学校長会の会報発行にあたっての広報部の構想、部会の開催、会報の内容等は次のとおりであった。

- 1 平成11年度・会報の構想
(1) 会報は2回発行する。(91号、92号)
内容はほぼ従来どおりとする。
(2) 「地区だより」については、「活動計画」「活動報告」を執筆する地区が固定しないように、年度ごとに入れ替える。
(3) 専門部については、前期号(91号)に活動計画、後期号(92号)に活動報告を掲載する。
(4) 91号、92号ともに12頁編集を原則とする。

2 部会の開催

- 第1回 平成11年4月26日(伊)教育会館。役員決定、本年度の編集方針等についての協議。
- 第2回 平成11年6月21日(伊)南河内中。会報91号、92号の内容、執筆者の選定、原稿依頼、反省と今後の課題等についての協議。

3 会報の発行と主な内容

- ・第91号 平成11年9月10日発行
 - ・第92号 平成12年2月10日発行
- 第91号の内容
高梨会長あいさつ、役員所感、退任にあたって(鈴木前副会長)、各専門部活動計画、関東甲信越大会(長野)報告、新任校長の一言、地区だより、朝会訓話、お知らせ
- 第92号の内容
役員所感、全日中大会(北海道)報告、研究学校報告、海外研修報告、各地区だより、各専門部の活動報告。なお、都合により、地区

だよりは、1地区減となった。

4 その他

6月の広報部会では、今後出来る限り読みやすい広報紙の発行をめざして努力していくことが話し合われた。

◇ 進路対策部

部長 土屋忠直(小・乙女中)
本年度の研修主題を昨年度と同様「中学校進路指導の適正な推進と高校教育改革への提言」と定め、3回の研修会を開催した。概要等は次の通りである。

- ◇ 第1回研修会 7月16日(休)
ア 昨年度までの研修のまとめと今年度の課題
イ 公・私立高等学校の入学選抜制度について
ウ 中高一貫教育実践協力校の実状について
エ 私立中高等学校連合会代表との協議会の内容
・次回10月に予定している協議会についての運営方法等について細部を詰める話し合いを行った。

- ◇ 第2回研修会 10月26日(火)
「私立高校の教育について」(懇談会)
ア 学校制度について
イ 入学者の選抜について
ウ 学校紹介について

上記3つの内容について、建設的な回答を得ることができた。特に年々早まっている私立高等学校の入学試験日については今後早まることはないということであった。また私立高等学校側からも各中学校で私立高校説明会を是非持ってもらい、私立高等学校の教育を理解してほしいとの要望が出された。各高校ともに少子化の影響から厳しい競争の時代に生きる道を探っているのが現状であり、なかなか統一した足並みが取れないのが本音であるという。

- ◇ 第3回研修会 12月2日(休)
ア 先の協議会のまとめ
イ 各地区の実状報告(中高連絡協議会)
ウ 公立高校への要望
エ 県教育方針、高校入試制度改革

今回は各地区の中高連絡協議会の実状報告と公立高等学校入試についてであったが推薦入試の在り方、調査書(十段階評定)の問題、出願方法の改善、不登校生徒の受け入れについて等多くの意見が出された。これらをまとめ、課題として次年度へ引き継ぎたいと考えている。

☒ 生徒指導部

部長 柴田 一 男(上・東原中)

1 生徒指導部では平成11年10月28日(木)宇教育会館に於いて、生徒指導部研修会を開催した。生徒手帳編集会議後、研究課題「いじめ問題及び不登校等学校不適応生徒への適切な指導と対応」に迫るために、各部員の勤務校及び地区において、日々研究実践していることに関して資料を持ち寄り情報交換を行った。

2 実践例

(1) 課題解決のための校内指導体制の在り方と早期発見

- ・早期発見につながる校内指導体制の再点検
- ・校内研修による教師の意識の高揚と指導力の向上
- ・教育相談体制の充実・強化
- ・スクールカウンセラーと心の教室相談員の連携

(2) PTAや地域との組織の整備状況と具体的な活動内容

- ・地区児童生徒指導連絡協議会との連携
- ・PTAいじめ対策委員会の設置
- ・PTA総会等による生徒指導に関する情報提供の機会の設定

(3) 各種専門機関との連携の在り方と具体的な実践事例

- ・適応指導教室との連携
- ・各種相談機関、児童相談所との情報交換
- ・警察・駐在所との情報交換

(4) 特色ある教育活動による課題解決のための積極的な取組

- ・生徒が主体的に取り組める学校行事の企画運営
- ・生命尊重・人権教育の推進
- ・LifeRoom(学習・不登校等・外国人子女等の支援のための教室)

(5) 「心の教室相談員」との連携の在り方と具体的な実践事例

- ・心の教室と適応教室との連携
- ・不登校生徒保護者会と心の教室相談員との情報交換の実施
- ・学級担任との連携(心の相談員の家庭訪問の実施)

☒ 修学旅行部

部長 青柳 宏(宇・陽西中)

修学旅行部では年度当初の専門部会で決定した組織及び事業計画に基づき、関東地区公立中学校修学旅行委員会(関修委)及び全国修学旅行研究協会(全修協)等の研究団体との連携を図りながら、下記の活動をしてきた。

- ・11. 6. 4(金) 関修委総会並びに第1回研究協議会 (茨城)
- ・11. 6. 25(金) 全修協修学旅行セミナー(東京)
- ・11. 7. 13(火) 三地区(関東・東海・近畿)中学校修学旅行委員会総会 (名古屋)

- ・11. 7. 19(土) 関修委事務局へ「平成11年度実施報告書」及び「平成13年度修学旅行専用列車利用申込集計表」を送付

- ・11. 9. 17(金) 関修委第2回研究協議会(東京)
- ・11. 9. 29(木) 栃木・茨城合同修学旅行委員会 (茨城)

- ・11. 10. 22(金) 関修委第3回研究協議会(東京)
- ・11. 11. 19(金)~20(土) 第16回全国修学旅行研究発表会並びに三地区臨時総会(岡崎)

- ・11. 11. 26(金) 第35回関修委研究発表及び関修委第4回研究協議会(栃木)

- ・11. 11. 30(火) 「平成13年度修学旅行新幹線輸送計画書」を地区部会長を通して配付

- ・12. 1. 17(月) 「関西の旅申込集計票」を教材研究所へ送付

- ・12. 2. 4(金) 各県修学旅行委員長・部会長会議 (栃木)

- ・12. 2. 15(火) 関修委第5回研究協議会(東京)

特に、本県で開催した第35回関東公立中学校修学旅行研究発表会では、予定した参加者数を上回る211名を数え、宇都宮市立宮の原中学校、足利市立毛野中学校等の生徒主体の充実した研究発表があり、大会が成功裡に終了することができました。

多くの先生方のご協力に感謝申し上げます。

海外研修視察記

ポルトガルの教育から学ぶこと

葛生町立葛生中学校長

西沢松男

1. はじめに

平成11年度文部省海外派遣栃木県第91団20名の団長として、10月6日から10月20日までの16日間ポルトガルとフランスに行き回りました。このような機会を与えてくださいました文部省、栃木県教育委員会、関係機関の方々に心から感謝申し上げます。

以下は、研修先ポルトガルのアベイロ市での教育の取り組みを率直に紹介するとともに、私自身の感想を少しでも伝えられればと思っています。

2. 市民と子供達の関わり

教育は、教師による指導・援助と家庭教育が大切であるが、社会全体の状況や地域の環境も子供達への教育に大きく影響する。訪問したアベイロ市は、町全体が赤い屋根と白い壁に統一され、古いものを大切にしている美しい町で、町全体が博物館のようである。町には、日本で見ると自販機やコンビニは無くスーパーマーケット等は見つけるのが大変なくらいである。従って、子供達は人と人との関わりの中で必要な物を店で買い生活することになる。これらの行動は、買う子供達と売店の人とのあいさつや会話からはじまり、子供達と地域とのつながりに発展し、自然に地域が子供達の教育に参加することになる。アベイロ市民は、大きな声で誰とでもあいさつができるし、そんな中で育った子供達は当然のように私たちにあいさつし話しかけてくる。地域の行事に子供達を参加させることも大切であるが、自然にしかもふだんの生活で地域の人たちが、子供達に関われるような町づくりができればと思っている。

3. アベイロ市の教師

私は、アベイロ市にゆくまでは教師は、日本と同じように教科指導・生徒指導・進路指導・交通指導・部活動等なんでも指導しているのか

と思っていた。しかし、ポルトガルの教師は、教科指導が仕事であり、いかに指導法を工夫・改善し分かりやすい授業をするかが命である。入学式や卒業式などの大きな行事もなく、放課後はそれぞれ自分で選んだ塾・スポーツクラブ等で過ごし、進路は自分の卒業証明書と成績をもって自分で決定する。勿論高校・大学入試はなく教育委員会で成績を参考にして進学校を決定する仕組みで、中学校・高等学校は進路について一切関知しない。子供達は、卒業証明書と最終成績が自分の進路に大きく左右されることもあって、授業には真剣に取り組んでいる様子が視察できた。また、1学級が小・中学校では20人学級、高校は30人学級で、一人一人を生かす授業が展開されていた。教員との交流会で生徒指導は宗教と家庭で実施することや教員の勤務について話し合いをしたが、日本では小・中学校が40人学級、高校が45人学級であることを知って、そんな人数でどうやって一人一人に指導できるのか驚いていた。日本の教員は、学校では学者・易者・スポーツコーチ等になるなど、役者以上の役を演じ、多くのことを任されている。今回ほどアベイロ市の教師がうらやましく思ったことはない。私が帰国し本校でのあいさつは「先生方本当にありがとう」であった。

4. アベイロ市の教育制度

アベイロ市の教育制度は、各学校単独によるものではなく、地方教育委員会を中心としたアベイロ県のアラダ地区全体を1つの学校群(グループメント)として捉え、幼稚園・小学校・中学校を有機的に結びつけて教育の効果を上げようとしている。従って、学校名がないことには驚いた次第である。幼稚園と第1段階学校(6~9歳)、第2段階学校(10~11歳)、第3段階学校(12~14歳)を縦または横の学校群としてまとめるもので、将来は幼小中高一貫教育などの統合を進め、民主的な学校経営や都市と文化のつながりを学校教育に反映させようとしている。アベイロ市の幼小中の学校群のとりまとめは、現在までに約80%が終了している。訪問したアラダ学校群では、幼稚園から第3段

階学校までを縦の学校群として捉え「学べそして実行せよ」という一貫した教育方針のもとに様々な課題に対応しようとするシステムが取り入れられている。また、これらの学校群には、学校経営方針を掲げ3年ごとに教員・生徒代表・保護者代表の選挙で選ばれた校長1教頭2の3人で学校経営にあたる。これらの教育制度は、民主的で分かりやすく、地域全体で子供達を教育していく様子が理解できる。特に日本で課題になっている幼小連携や小中連携が、自然にできる仕組みになっており参考になった。親のいない子、親がいても親に養育能力がない子、問題行動があるため普通校に通学させられない子のための寄宿学校（特別教育校）を設置し、その子の能力や状況に応じた段階教育も実施しており、日本でもこのような特別教育が、各市町村単位にできることを願っている。

5 アラダ地区の子供達

アベイロの市民のほとんどが、ポルトガル語を話し英語を話せるのは英語教師くらいである。しかし、中学生・高校生はほとんど英語を話すことができる。これはEUに参加することを見据え、数年前から英会話に力を入れた授業を展開しているからである。また、中学生の理科の授業では、グループに水・3種類の土・ピーカー等を与え、グループで実験する内容を決定し、データを発表する授業であったが、班が協力しあって生き生き取り組む生徒の姿と教師の机間巡視しての授助指導は、現在日本で取り組んでいる課題を見つけ、課題解決の能力を育成する授業に参考になった。

6 おわりに

私は、教育は模倣から始まると考えている。私がそうであったように、子供達は大人やテレビで放送されたことをいち早く真似をしたくなるものである。今回アベイロ市の教育を視察し、大人が子供達のためにいかに社会全体での教育に取り組むことが大切かが理解できたように思う。教育を学校だけに任せ悪いときは批判するのではなく、社会全体で将来ある子供達を育てる意識とシステムづくりが、急がれるような気がしてならない。

地区だより

平成 11 年度の研修活動

宇都宮地区

宇都宮市中学校長会は、市立 21 校と宇大附属中学校とで構成している。平成 11 年度は、4 名の新会員を迎え各種研修を開催することにした。

○ 宇都宮市中学校長研修会

22 校による研修会で、年間 5 回計画した。

- ・ 1 回（4 月 6 日）平成 11 年度の校長会の組織と事業について。
- ・ 2 回（6 月 8 日）県理事会の報告と総合的な学習の時間について。
- ・ 3 回（10 月 5 日）県理事会の報告と市教委への要望について
- ・ 4 回（1 月 25 日）予定
- ・ 5 回（3 月中旬）予定

○ 宇都宮市中学校長情報交換会

上記研修会の補助的機会として、市教委主催の校長会終了後に開催するものであり、本年度は、5 回（4 月 15 日、7 月 1 日、9 月 24 日、12 月 2 日、2 月 24 日）計画した。

○ 宇河地区中学校長研修会

河内地区 9 校との合同研修会であり、年間 4 回計画した。そのうち 2 回（6 月 25 日、12 月 2 日）は、宇河地区の公私立高等学校長との懇談会とし、次のような内容が話題となった。

- ・ 一日体験学習の実施方法について
- ・ 生活指導について（特に退学者の問題）
- ・ 総合的な学習の時間の取り組みについて
- ・ 入試のあり方と手続きについて

○ 市立中学校先輩校長との懇談会

例年開催している懇談会で、本年度は 12 月 1 日に実施した。

平成 11 年度の研修活動

下都賀地区

下都賀地区校長会は、県校長会と栃木市及び小山市校長会との緊密な連絡をとりながら、12 名で活発な研修活動に取り組んでいる。本年度は、定例研修会、県外教育事情調査をはじめ下記のような活動を行ってきた。

1 活動計画の概要

(1) 研修テーマに基づく研修

- ・ 研修テーマ「夢と希望をもち、たくましく生きる生徒」が育つ進路指導—学校・家庭・地域が力を合わせ—

大平南中の進路指導の研究に合わせて、年間 9 回の研修会では、各学校の実践例を持ち寄り、テーマに係わる共通理解を図ったりしながら研修を深めた。

9 月 研究に関するアンケート調査の実施

(2) 県理事会、各専門部報告及び協議

(3) 情報交換・連絡調整

中体連・中文連・中教研・各町校長会・生徒指導等の連絡調整をしている。

(4) 会場校の町教育長による講話

会場校の町の教育長に、30 分程度の講話をお願いしている。

(5) 会場校の学校経営について、説明をうけ、研修を深めている。

2 県外教育事情調査

10 月 18 日～19 日 新潟市立白新中学校

白新中学校が中心になっている「総合的な学習を共に創り上げる会」で研究している、内容組織、時数など、新教育課程に関する調査研究を行った。

3 各学校の校長講話、職員研修資料、入学式、卒業式、始業式、終業式等の原稿を持ち寄り参考にしていく。

以上のようなことから、会員相互の研修を深め、共通理解のもと意思の疎通を図っている。

本年度の研修活動の概要

栃木地区

栃木市中学校長会は、中田昌宏会長のもと 7 名で活発な研修活動を推進している。本年度は、定例研修会、県内・外教育事情調査をはじめ、次のとおりの研修を実施した。

1 課題研修

(1) 研究テーマ

「多様な体験活動を生かした、豊かな心を育てる教育」

(2) 研究の概要

年間 7 回の研修会において、テーマにかかわる共通理解や、各学校での実践例を基に研究協議を展開した。

特に今年度は、各学校で取り組んでいるボランティア活動や自然体験活動などの実践活動を重点的に検討した。

2 県内教育事情調査

(1) 6 月 11 日・高根沢町立阿久津中学校

(2) 「情報の活用を図り、情報化社会を主体的に生きぬく生徒の育成」（情報ネットワークを活用した学校教育）の取り組みについての研修

3 県外教育実状調査

(1) 11 月 25～26 日・岐阜市立東長良中学校（外に、陶磁博物館・トヨタ博物館・名古屋港水族館など）

(2) 「特色ある教育課程の編成について」及び「一人一人が自ら学ぶ力をつける学習活動」の取り組みについての研修

4 小・中・高の連携

(1) 小・中合同での研修会
情報交換、日頃の課題等の協議。

(2) 中・高の懇談会

① 「一日体験学習について」の情報交換と協議。

② 「進路指導の在り方について」の情報交換と協議。

Ⅱ 研修計画の概要

那 須 地 区

平成11年度、那須地区中学校長会は、4名の退職者及び小学校への異動者1名を送り出し、新たに5名の新会員を迎え、4月7日に第1回目の研修会を開催し佐久山中学校深谷哲校長を研修部長としてスタートした。

この研修において、中学校教育の現状を踏まえ校長のリーダーシップを発揮し、特色ある学校経営を目指すと共に、校長の資質高揚を図るために、平成11年度の研修テーマや研修計画について検討し、次のように決定した。

* 研修テーマ「学ぶ意欲と主体的に生きる力を育てる中学校教育」

・・創意工夫を生かした教育課程の編成と運営・・

* 研修の具体的内容

多様化する社会に対応して、主体的に生きてゆけるようにする為には、自ら考え、判断し、物事に向かって積極的に取り組むことのできる能力や態度を身に付けさせることが肝要である。

その為、各領域での教育活動で体験的・実践的活動等を通して、生徒が自らの力を発揮し、自信を持ち、さらなる活動への意欲につながる展開がなされるような教育課程の編成、実施への工夫が必要である。

* 研修計画について

- 1 4月7日 研修計画、組織編成
- 2 6月14日 研修主題・研修の構想・研修の内容について（研修部研修）
- 3 22日 研修主題・研修の構想・研修の内容について提案（部会研修）
- 4 7月26日 那北26校の取り組みの集計・分類まとめ等（研修部研修）
- 5 8月6日 主題による研修の中間報告と検討（部会研修）
- 6 8月 主題による研修の深化を図る。（研修部研修）
- 7 9月9日 那須地区の研修について発表（県子ども科学館）
- 8 9月24日 研修の深化・研修のまとめ（研修部研修）
- 9 11月18日 地区全体研修会
- 10 1月25日 11年度の反省と次年度計画

* 学校運営上の諸問題について

テーマ研修と共に、研修日毎に協議し、各校の実情を交換し、共通理解を図り校長としての資質の向上に努めている。

Ⅱ 研修活動の概要

安 佐 地 区

安佐地区の中学校長会は、佐野市と安蘇郡の2つの中学校長会が合同して研修に取り組んでいる。佐野市6名、安蘇郡4名で構成されており、平成11年度は佐野市に1名の新会員を迎え、定例の研修とその他の研修に取り組んできた。

I 定例の研修

1 研修テーマ

「教育相談活動の充実」

スクールカウンセラー、心の教室相談員との連携を中心に

2 研修内容

- (1) スクールカウンセラー、心の教室相談員の配置や活動に関する現状について
- (2) 成果や課題について

3 定例研修会の概要

- (1) 4月20日・研修計画の決定
 - ・学校経営上の諸問題について
 - (2) 6月24日・研修テーマに基づく研修
 - ・学校経営上の諸問題について
 - (3) 10月19日・研修テーマに基づく研修（研修のまとめと報告内容の検討）
 - ・学校経営上の諸問題について
 - (4) 11月19日・研修テーマに基づく研修（報告書のまとめ）
 - ・学校経営上の諸問題について
 - (5) 1月25日・反省と次年度の研修計画（案）
 - ・学校経営上の諸問題について
- 上記研修テーマに基づく研修内容の詳細については、第21回県中学校長研究大会の澤田勝之校長の発表を参照されたい。

II その他の研修

- 1 安足地区中学校長研修会
 - 足利市中学校長会との連携による研修
- 2 安佐地区中・高連絡協議会
 - 安佐地区の各高等学校長との情報交換会を年間2回開催（6月、10月）